

平成13年1月(2001年) No. 421

## <新年ご挨拶>

# 記念すべき21世紀の始まり OMCの更なる発展と充実の年に

会長 合原一夫

21世紀に入る、といっちは何かと騒がれたその21世紀も遂にやってきました。この21世紀に入って、このさきどれだけ生きられるか判りませんが、とにかく一日一日を大切に、元気で、より楽しく、より充実した人生を送りたいものです。

さて、前年度は例会、研究会、撮影会、公開映写会などのOMC活動に加えて、外部団体への支援事業など活発に活動してまいりました。全国ビデオコンテストにも7氏、12本の作品が入賞を果たすという快挙がありました。今年も前年以上に活動したいとは思いつつ、このままでいいのか、という懸念も頭をよぎります。世の中ハードの世界はものすごい早さで変化しております。パソコン編集が当たり前の時代になろうとしています。インターネットも普及しつつあります。カメラの世界もテープからディスクで記録するのも夢ではなくなりました。私ども熟年者にはついていけないという嘆き節も聞こえます。若い人にかかわない時代になったのかも知れません。しかし、熟年者の中にも苦勞してモノにしておられる方もいます。とにかく、21世紀はコンピュータの時代、おいてきぼりを食わないために常識的なことから学ぼうではないか、と、早速2月研究会で、ノンリニア編集の初歩の初歩について取り上げることにしました。

とまれ、ハードの世界は変わっていくでしょうが作品の評価は脚本・構成及び編集の良し悪し、適切なBGM等、映像としての基本はソフトの世界であり、映像感覚の問題です。熟年者も意を強くしてマイペースで今年も元気で楽しく、頑張っていきましょう。本年もどうぞよろしくお祈りします。

### 1月例会のお知らせ

1月例会は27日(第4土曜日)午後18時より、阿倍野市民学習センター(あべのベルタ3階)で開催します。どうぞ作品をお持ちになってお越しください。なお、1月は作品研究会はありません。

## 神奈川県映像コンクールに安居夫妻がそろって入選

- |      |             |         |    |
|------|-------------|---------|----|
| ◎ 入選 | 神功皇后って誰だ？   | 安居 利次さん | 8分 |
| ◎ 入選 | 私のこだわり 夫の食事 | 安居 良枝さん | 8分 |
- おめでとうございます。

■1月20日(土)13時より、第8回「日本を縦断する映像発表会」が、阿倍野市民学習センター講堂にて行われます。今回は前田作品、安居(利)作品も上映されます。是非ご参集ください。お手伝い出来る方はいつもの通り椅子並べ等にご協力をお願いします。

### ■作品研究会は偶数月に開催

平成13年度の作品研究会は、原則として偶数月に開催します。奇数月は適当なよいテーマや場所があればミニ撮影会や、有志を募っての遠出や一泊撮影会などを企画したいと考えています。皆さんの声をお寄せください。

## 12月作品研究会のレポート

今年最後の作品研究会は、第3土曜日16日13時半より開催。11名の参加者と6本の作品が出品されました。夜の例会と違って作品研究会の方は、時間もたっぷりとれて、自由に意見の交換や助言が出来ますので、作品づくりの上達の早道です。これからも多くの方のご参加をお待ちしています。

### ■上映作品(敬称略)

1. 東京時代祭り：合原一夫、11分45秒。ビクターの初期の名機S-VHSの55型というカメラで12年程前に取った映像を、DVにダビングしたものを比較しましたが、DVにしたかといって画質が悪くなったり、良くなったりしない、という実感でした。会場でパナソニックでDVにしてみたのですがソニーのDHR1000でのダビングときわだった違いはないように思いました。作品の方は、東京でも時代祭やってんのか、という声があがりました。
2. 作品66：安居良枝、4分10秒。靱公園、花と彫刻展のミニ撮影会作品の改作。題名もBGMもがらりと変え、一見心象風作品に仕上がりに、よくなっていました。作者は原点に戻っての再出発かと今後が期待されます。
3. よさこい：安居敏次、5分20秒。前作をノンナレで作り直したと意欲のほどを見せられました。が、安居さんはやっぱり、きっちり調べて構成されるナレーション入りの作品が作者らしい気がします。ノンナレでこういう祭りの映像は、アップが勝負だという助言がありました。
4. 乱舞よさこい：関剛、5分50秒。前作を少しいじったとの事ですが、判らず仕舞。ですがさすが見習うべき点の多いお手本でした。
5. 晩秋：江村一郎、5分15秒。大阪城公園での秋の風情を撮影されたものですが、青テントを入れたことによって、映像のねらいが分散してしまいました。社会性を訴えたいのなら、もっと積極的な映像が欲しいところです。
6. ユングフラウ・ヨッホ観光：有村博、7分5秒。スイス紀行の一つ。氷河の中のトンネル等、夏季なのに冬景色とはさすが山岳の国スイスです。楽しい映像でした。



## 12月例会のレポート

12月の例会は16日の午後6時より何時もの例会場で開催しました。司会、関さん、書記、有村さん、デッキ係に渡辺さん、奥さん、受付兼証明係を増池さん、安居良枝さんの担当で進行しました。

◆出席者：森、奥、関、安居利、安居良、江村、合原、花岡、那須、森田、岡本、藤原、上総、有村、森口、江藤、渡辺、松本、高田、森下、今井、増池、中尾、西村の皆さん（敬称略）24名

◆上映作品（今月の記録と講評担当：有村 博世話役）

### 1) 紅葉の室生寺 渡辺 雄史さん 5分50秒

画面の切り取り方、画角が抜群にお上手だと感じました。欲を言えば紅葉の今一つ大きなアップが欲しかったと思います。五重塔の改修、開眼法要の翌日に行かれたそうで、当然これが主題ですので、もう少し後へもってきて最後の紅葉に繋がった方が構成上有利のように思えます。本堂の仏を写真で表現するか、音楽の扱いについてのアドバイスが司会者からありました。

### 2) 清滝川に沿って 増池 茂さん 6分25秒

京都の紅葉の名所の清滝から嵯峨野へかけて紅葉を見ながらハイキングされた行程を順を追って編集しておられます。記録としてそつなくまとまっていますが、情緒的な音楽がかえって邪魔している様に思えました。この作風にはもっと軽快な音楽が合うのではないのでしょうか。紅葉は逆光とアップが一番美しいとされます。何とか撮れなかったのでしょうか。「ゆどうふ」の旗が象徴的に最後に出ますが、その意図が伝わってきません。ハイキングでお腹がへったからだったのでしょうか。

### 3) YOSAKOI 江村 一郎さん 11分35秒

高知のよさこい祭4日間の最後の日に撮影されたそうです。夜間撮影もよし、半逆光とアップの効果も抜群で、久しぶりに江村さん独特の持味を堪能しました。この祭の映像は最近、何人かの作者のを見ましたが、若い女性が汗びっしょりの絵はこれが初めてです。激しく動く対象の手先や、顔の部分アップもその気になれば撮れる様です。お見事です。ご馳走も腹八分目が一番美味しいと言います。もう少し食べたいな、の所でやめるのが最良でしょう。皆さんの声の集約は7~8分の作品にすれば文句なし、でした。「来年また会おうぜ」のラストも良かったですね。

### 4) 希望 安居 良枝さん 4分00秒

年末のクリスマスツリーなどを中心にした夜間撮影でノンナレ作品に挑戦されました。光ってる部分の全体像を見せようとするので、どうしてもアップ不足になるようです。音楽もベースの音で重々しく感じられると司会者からのご指摘がありました。何時も思うのですが、これだけの作品を作られるのですから、「おわり」の既製品は考えものです。作品は最後が一番大切です。ベテランの作者の「おわり」は音楽に合わせて、繊細な神経を使って構成しておられます。誰にでも理解の出来るタイトルともどもご一考を・・・。

### 5) フリマ（フリーマーケット） 安居 利次さん 4分10秒

大阪南港に繫留中の帆船が就航するまでを中心にした南港風景を描くのか、フリマといわれる自由市場を描きたいのか判別に苦しむような編集です。後でお聞きした所、自由市場では撮影しないでくれ、と言われて十分撮れなかったそうです。だったらこのタイトルで観客に納得させようとするのは無理です。殆どアップ画面がなく絵と音に臨場感がありません。それに瞬間的に絵残りまであります。余程急いでお作りになったようです。

6) UFO 有村 博さん 3分20秒

昭和53年、今から21年も前の歌謡曲8ミリ映画コンテストでの作品のテレビネです。今から思えば類似カットはあるわ、フィルムの短いカットは繋ぎの部分で揺れてるわ、で欠点だらけですが、作者にとっては思い出の一本ですし、その頃はやったピンクレディも懐かしく感じてもらえたと思います。

7) デンパークに行つて 江藤 洋司さん 6分47秒

たしか作者の2本目の発表作品です。愛知県安城市にある遊園地に出掛けて、楽しい仲間と一緒に撮影練習をしたとあります。撮る方も撮られる方も普通の若者同志の会話の中で撮った映像ですと、その楽しさがもっと表現出来るのではないのでしょうか。後からの話ですと、中の二人は撮られるのを嫌がって殆ど入ってないそうです。もっと気楽に映像ごっこをみんなで楽しむ雰囲気です。

8) 幡祭りの頃 合原 一夫さん 9分10秒

福島県東和町で12月の初め頃行なわれる「日本三大はた祭」という珍しいお祭りを撮ってこられました。奥さんの所属されているスチールカメラの会に同行して、近くまで寄っての撮影が出来たそうで中々迫力のある映像でした。手作りの登り旗を作っている所から祭の終るまでを克明に撮られ、厳しい冬の近づく田畑の風景を撮り足して見事な編集でまとめておられました。

9) チトワン王立自然公園 高田 淳吉さん 12分12秒

ネパールの南西部、インドに近いこの地に4日間、ご家族ともども滞在されて撮影した膨大なテープの中から編集されています。美しく雄大な自然の中での現地の人たちとの交流を暖かく描いておられます。元々、王族が狩りをする場所だったので自然がそのまま残ったそうで、鱒を見たり象に乗ったりして楽しい映像ですが、現実には住居と言ひ、食物と言ひ、相当なサバイバルが要求される所ようです。出来れば最初に「これ私」とか、「これ息子」「私の奥さん」などテロップを入れてもらうと、ご家庭の記録以上に、全く知らない観客にもより共感が得られる作品になると思います。それには紹介の顔のアップがあれば良いのですが・・・作者も踊ってるといふ夜間の部分など、理解しにくい画面をカットしてもう少し短くすれば、というご意見も多数ありました。

10) 朝の光の中で 森口 吉正さん 5分30秒

早朝の朝靄のこもる、奈良公園の浮御堂に鹿をからませた見事な作品です。最後は霧の晴れた飛火野に自転車で行って来て鹿に餌をやる所で終わります。最初に人物が出てきた時には多少の違和感を思ったのですが、再々出てくる人物も自然に溶け込んで点景の扱いとして納得ができます。カメラマンとか、必要でないカットを少々整理されたら、より良い作品に仕上がるでしょう、というアドバイスがありました。

以上で会員さんの作品上映を終り、何時ものように喫茶店と居酒屋に別れて2次会を楽しみました。

## 平成12年度の活動をふり返つて

平成12年度は決算月を9月末から12月末に改め、毎年1月から12月までを会計年度に改めた関係で、15ヶ月の長い期間になりましたが、別途総会にて発表がありますように赤字決算になることもなく、例年以上に活発な活躍できたのではないかと考えております。ここにこの1年を振り返っていろいろ纏めてみました。

## この5年間の例会活動記録の推移

年度別	会員数	1例会当たり		年間 総作品数	備考 対象月数
		出席者数	作品数		
平成8年度	17名	11.0人/回	5.9本/回	59本	10ヶ月
9	26名	15.5人/回	7.3本/回	80本	12ヶ月
10	32名	21.3人/回	11.9本/回	143本	12ヶ月
11	35名	23.0人/回	12.2本/回	146本	12ヶ月
12	37名	23.1人/回	11.5本/回	172本	15ヶ月

注：作品研究会関係は含まず。淡路撮影会コンテスト作品を含む。

上表から伺えるのは、阿倍野市民学習センターへ会場を移した5年前の当時から比べると、会員数、例会出席者、作品数など、ほぼ倍増している、ということと、この3ケ年ほどは安定した経過を示していることなどです。この安定した数字は、例会場の大きさと時間からみて丁度よい理想的な数字ではないかと考えられます。平成13年度もこの延長で活動していきたいものです。

### ■例会を盛り上げて頂いた功労者たちに感謝します。

◎例会皆出席者：有村、関、安居夫妻の4氏。

14回出席者：江村、合原、森の3氏。

13回出席者：中尾、華岡、森下、森田、渡辺の5氏。

12回出席者：今井、奥、前田の3氏。

◎毎回作品出品者：安居夫妻の2氏。

14本出品者：有村氏。

11本出品者：江村、合原、森口の3氏。

10本出品者：増池氏。

以上、何かと用件や体調のすぐれない日もあった筈なのに、例会を最優先して出席にて頂き、沢山の作品を発表されて会員諸氏を楽しませて頂いたことに感謝します。なお14回以上出席者及び14本以上出品者に大しては、ささやかではありますが、DVテープを記念品として贈呈します。

### ■作品研究会の記録

作品研究会も軌道に乗り以下のような活動を行いました。

◎研究会記録 総参加者数192人 1回当たり13.7人/回

総作品数 97本 1回当たり7.5本/回

◎特別講座 ①4月22日(土)脚本・構成の作り方、まとめ方(合原)

②6月24日(土)映像音楽・選曲と編集の実際(関)

③8月26日(土)題名をどうつけるか・実例集からヒント(合原)

◎作品研究会としての撮影会

①1月27日(土)御堂筋の彫像を対象とした撮影会。参加者15名。

②2月11日(祝)雪景色(余呉)をテーマの撮影会。参加者8名。

③4月16日(日)万博記念公園における撮影会。参加者15名。

④8月10～11日(木・金)高知よさこい祭り撮影会、参加者有志7名。

⑤10月15日(日)鞆公園にて「花と彫像」をテーマの撮影会、10名。

### ■OMC恒例の行事としての一泊撮影会

◎5月6～7日(木・金)淡路撮影会(花博その他)、参加者15名。

撮影会作品コンテストを実施、公開審査に11本応募。

### ■全国アマチュア映像コンテストに続々入賞の実績

1)合原一夫氏：玄光社、旅の映像コンテスト入賞「ご苦労さん」、

・第9回東京アマチュア映像祭全国ビデオコンテスト優秀賞「雑草都市」

- 2) 有村 博氏：第 14 回国民文化祭ぎふ'99 映像コンテスト、イメージ部門佳作賞「MIND SPACE」
  - ・せとうち映像祭'99ビデオコン 審査員特別賞「三味画の世界」
- 3) 安居利次氏：神奈川県映像コンクール入選「神宮皇后って誰だ？」
  - ・大阪市視聴覚教材コンテスト特選「環状線」
  - ・大阪市視聴覚教育協議会第 2 回ビデオメッセージ優秀賞「かがり火フェスティバル in 住吉大社」
- 4) 安居良枝さん：神奈川県映像コンクール入選「私のこだわり、夫の食事」
  - ・大阪市視聴覚教育協議会第 2 回ビデオメッセージ優秀賞「癒しを求めて」
- 5) 藤原純三氏：大阪市視聴覚教育協議会第 2 回ビデオメッセージ大賞「不思議熊野古道」
- 6) 西村光雄氏：玄光社、旅の映像コン入賞「ネパールの中のニッポン」
- 7) 前田茂夫氏：第 9 回東京アマチュア映像祭全国ビデオコンテスト入賞「冬・高野山」

以上 7 氏、11 作品で、これだけで公開映写会が立派にやっつけられるプログラムが組めそうです。会員諸氏のご活躍が伺える年でした。もし、上記以外で入賞されている作品や作者がありましたら事務局までご一報ください。

#### ■OMC映像フェスティバルの実施

- ・第 39 回 平成 11 年 11 月 28 日（日）阿倍野市民学習センター：190 名入場
- ・第 40 回 平成 12 年 11 月 25 日（日）難波市民学習センター：180 名入場

#### ■外部団体への支援事業（映写担当、司会担当受付他、案内状発送作業）

- ・第 3 回大阪アマチュア映像祭、OMC より 3 作品出品。
- ・第 4 回大阪アマチュア映像祭、OMC より 3 作品出品。
- ・第 6 回日本を縦断する映像発表会 H12.1.29 阿倍野市民学習センター
- ・第 7 回日本を縦断する映像発表会 H12.7.29 阿倍野市民学習センター

（合原記）

#### ■インターネット関連の平成12年度総括

##### 1. ホームページ「ビデオスケッチ」開設

ビデオ映像を紹介するホームページ「ビデオスケッチ」を開設したのが H11 年 8 月、その後 H11 年 12 月から OMC 会員の映像を配信するように構成を変えてから、1 年 1 ケ月を経過しました。毎月 1 本の会員作品を配信していますから、例会作品を 13 本と撮影会作品 1 本の合計 14 本を配信したことになります。出来れば毎月 2 ～ 3 本を紹介したいところですが、何しろビデオ作品をインターネットに載せるためには、DV テープをパソコンが読み書きできるファイルに変換しなければなりません。ビデオファイルの作成に非常に多くのディスク容量を必要としますので、プロバイダーから付与されているサーバーの容量が少なく限られていることから、思うように沢山配信出来ないのが実状です。

##### 2. 検索エンジン「Yahoo」に掲載される

H11 年 10 月に「ビデオスケッチ」が検索エンジン「Yahoo」に掲載されてから、毎日のアクセス数が上がり、現在 1 日平均 30 ～ 35 回のアクセスがあります。そのうち何人の方が何本のビデオ作品を見て下さっているかは判りませんが、アクセス数に大きな変動がないことから、固定的なネットサーファーがおられるのではなかろうかと思っています。H12 年 10 月 31 日に藤原さんの「映像散歩」(OMC 関連サイト)、元 OMC 会員の柴谷さんの「ビデオラウンジ」が新規に登録されました。それに「ビデオスケッチ」の 3 サイトが Yahoo のビデオアート部に掲載されています。Yahoo に掲載されることは最近では掲載の審査が厳しく非常に困難な状況です。幸いビジュアルアート部門に OMC 関連の 3 サイトが掲載されていることは、特筆すべきことであろうと思います。ビジュアルアート部門は、

総数4サイトありますが、そのうち3サイトを OMC 会員（元会員も含めて）占めています。なお、ビデオ関連以外のサイトをも含めると、次の7サイトがインターネットに配信されています。

ビデオスケッチ(OVC関連)	前田茂夫さん	<a href="http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/">http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/</a>
映像散歩(OVC関連)	藤原純三さん	<a href="http://www.os.xaxon.ne.jp/~fujihara/">http://www.os.xaxon.ne.jp/~fujihara/</a>
ビデオラウンジ	柴谷郁夫さん(元OMC会員)	<a href="http://www.os.xaxon.ne.jp/~isv/">http://www.os.xaxon.ne.jp/~isv/</a>
シネマ通りビデオ街	柴谷郁夫さん(元OMC会員)	<a href="http://www.ne.jp/asahi/isdv/eizou/">http://www.ne.jp/asahi/isdv/eizou/</a>
生きがいはビデオ	安居利次さん	<a href="http://www.cwo.zaq.ne.jp/bfaaz805/">http://www.cwo.zaq.ne.jp/bfaaz805/</a>
STOUT BEAR	中尾雅博さん	<a href="http://www.wht.mmtr.or.jp/~stbear/">http://www.wht.mmtr.or.jp/~stbear/</a>
SL讃歌	前田茂夫さん	<a href="http://www.vega.or.jp/~smaeda/">http://www.vega.or.jp/~smaeda/</a>

### 3. インターネット環境の最近の状況

インターネットが米国の軍用・大学の研究用から、広く一般に開放されてからまだ7～8年位しか経っていません。世間で話題になるようになってからはまだ5～6年しか経っていないように思います。つまり非常に新しい技術・媒体なのです。しかも技術は日進月歩です。私がHPを開設した1997/1頃は28kbps/秒のモデムが早いほうで、14.4kbps/秒のモデムがまだ多く使われていました。その後技術の進歩で、28kbps/秒→33.4kbps/秒→56kbps/秒のアナログモデムへと進展してきました。NTTは最近64kbps/秒のISDN(デジタル回線)=フレッツISDNを盛んに宣伝しています。しかしこのISDNは現在ではスピードが遅く時代遅れの感が否めません。数年以上も前から米国はCATV方式、ADSL方式(いずれもISDNの10倍以上速い通信速度である)のインターネット網を張り巡らし世界の先端を走っています。一方東アジアでも、韓国はすでにADSLの普及はすさまじく、シンガポールは米国と同等といわれています。しかも通信費が日本よりはるかに安いので、完全に我が国は後れをとったとされています。

そこで日本のインターネット通信環境の高い・遅いという現状に危機感を抱いた政府は、政府合同会議「IT国家戦略」なるものを打ち出し、やっきになって遅れを取り戻そうとしています。その戦略の基本は5年以内に全国津々浦々まで、光ケーブル網を張り巡らし、国民の誰もがインターネットを活用できるようにしよう、という壮大な構想です。このアイデアは素晴らしいことですが、実現には膨大なインフラ投資を必要とします。一方NTTは全国に張り巡らした、ISDN網に要した巨額な投資を早く回収するためにISDNを普及しようとしています。より高速で米国や韓国等で実績を証明されたADSLが我が国で普及することに危機感を抱き、その普及を遅らせるために遅延工作を行ったとして、公取委がNTT東日本に立ち入り調査を行ったと大きく日経新聞に大きく報道されました。

・2000.10.24 日経朝刊に「公取 NTT を調査：高速通信戦略ミス映す、DSL 対応に出遅れ、NTT・郵政省光ファイバーを優先」。

・2000.12.21 日経朝刊に「公取委 NTT 東日本に警告」、「DSL 事業 私的独占の恐れ」とさらに追い打ちをかけています。

昨年の夏以降日経紙に、インターネット関連：IT：IT革命：IT国家戦略：超高速通信：光ケーブル：高速通信：ADSL：の文字が頻繁に登場します。それだけITにける政府、関係業界の期待が大きい証とは思いますが、政府がいうように5年で全国に光ケーブル網とはならないでしょう、と思います。光ケーブルは超高速といわれるだけあって、技術的には最高です。しかし、各家庭に光りケーブルを引き込む等インフラにコストがかかりすぎるので、その繋ぎ役として現在のアナログ電話回線をそのまま利用できてしかも高速(超がつかない)なADSL(アナログ回線)の方が望ましいのでないか?、と思えてなりません。何故なら今の遅いISDNでもメール交換や写真のホームページを見る程度ならさほど不満に感じないからです。いずれにしても政府が音頭をとり、高速インターネット網が整備されることは映像を愛する者にとって本当に喜ばしいことです。

どの方式が本命になるにせと、大きな関心と期待を持って高速ネット網の発展を見守りたいと思います。と同時にその対応策も考えておく必要があります。

以上のことから、「ビデオスケッチ」、「SL讃歌」に高速インターネットを視野に入れて制作したビデオ映像を試験的に配信していますので、ご覧になってください。画面大きさが今までより面積で4倍に拡大され、画質・音質とも大変良くなっています。しかし、ISDNでは全くダメで、CATVまたはADSLの環境でないとご覧いただけないところが残念です。

#### 4. コンピュータウイルスへの対応について

昨年末に会員2氏のパソコンにウイルスが侵入しそれぞれ被害を受けましたが、他の会員に伝染することがなかったのは幸いでした。伝染経路は1氏の場合は不明ですが、もう1氏の場合は感染源が特定できました。「筑紫哲也ニュース23」からのお知らせ：「幸福ビデオ募集」あなたのホームビデオを放送させてください！……というメールが、各HP開設者のところへ流されてきたのですが、そのメールがマトリックス(MTX)という悪性のウイルスに汚染されていたのです。発信者がマスコミ関係のメールだけに全国的に相当広がったのではないかと懸念しています。

確かにウイルスは恐ろしいのですが、恐ろしいからと云ってインターネットに背を向けるのは時代の流れに竿をさすようなものでしょう。出来る限りの対策を取ってインターネットを楽しむべきだと考えます。その対処策としては、

①ウイルス・ワクチン(5千円程度)をPCに組み込んで、定期的(1週間に1度位)にワクチンを最新版にアップデートし、PCを定期的にチェックする。

ワクチンが古いと、最新のウイルスを発見できないので、定期的なアップデートが非常に重要です。

②素性の不明なメールに添付されたファイルは決して開かない。

③素性の判らないフロッピーを不用意に自分のPCで開かない。開く必要のある場合は、まずワクチンでフロッピーを検査・検疫してから行う。

ウイルス騒動の後には、上記の対策を取っているの、ウイルスに汚染されたメールを受け取った場合は瞬時にワクチンが警報を発するので、かなり安心度があります。私の場合、上記の筑紫哲哉のメールを受け取った時には、PCが直ちに警報を発したので、すぐ削除して大事に至りませんでした。それもワクチンが新しかったので良かったのですが、古いワクチンだと最新のウイルスを発見出来ません。従ってパソコンを買ったままで、ワクチンのアップデートもせずに使っている状況では、ウイルスを発見できないのでワクチンの効用が期待できません。

注：①IT (information technology の略)、②最近のメーカーパソコンには最初からワクチンが入れてあります(バンドルされているといいます)。

(文責前田)

#### VIDEO 12月のインターネット例会作品紹介

「紅葉の室生寺」渡辺雄史作品(画像をクリックしてください、スタートします。)

No	Real Video5.0	for 28K modem	1038KB 5分40秒
1			